

令和 8 年度 第 2 回豊田市商業振興委員会

【日 時】 令和 8 年 8 月 18 日（火）午後 2 時から

【場 所】 豊田市役所南庁舎 南 5 1 会議室

【出席者】 <委員>

脇田 弘久	〔愛知学院大学商学部 教授〕
元岡 征志	〔シー・プロジェクト 代表中小企業診断士／社会福祉士〕
森川 信輔	〔豊田信用金庫 経営支援部長〕
松本 義宏	〔名古屋学院大学経営学部 講師〕
奥泉 友紀	〔豊田まちづくり株式会社 取締役執行役員〕
新田 都子	〔高岡地域消費者グループ 代表〕
山内由美子	〔とよた下町おかみさん会 令和 4 年度会長〕
鈴木 千加	〔足助商工会 女性部 部長〕
杉山 裕貴	〔市民公募〕

(計 9 名)

<事務局>

脇迫 博文	〔豊田市産業部長〕
成瀬 剛史	〔豊田市産業部副部長〕
川合 晃司	〔豊田市産業部産業振興課課長〕
鳶 和典	〔豊田市産業部産業振興課副課長〕
稲垣 量平	〔豊田市産業部産業振興課担当長〕
谷口 元	〔豊田市産業部産業振興課担当長〕
江口 愛可吏	〔豊田市産業部産業振興課主査〕

【傍聴者】 なし

【次第】

- 1 開会
- 2 産業部長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 本日の審議スケジュール等について

【問答要旨】

議事

(1) 足助地区 商業・サービス機能誘致奨金 基本方針（案）について

委員長

委員の皆様からご質問をいただきたい。

委員

香嵐溪は繁忙期と閑散期の差が非常に大きく、春と秋には観光客で賑わう一方で、夏と冬は来訪者が少ないという、非常に特殊な地域であると認識している。誘致する商業・サービス機能の中で、現状、特に不足している業種や、地域住民・観光客から具体的に求められている業種があるか。

足助支所

足助は、地域経済の活性化を目的として、地域と連携し、滞在型観光を推進していく。

その第一歩として、旧田口家住宅は、宿泊施設への改修を目的に、来年度及び再来年度に設計・修繕を実施する予定である。

既存の宿泊施設で後継者不足等による事業継続が課題となっている中で、今後は、宿泊施設を中心とした、飲食店や物販などの機能を周辺に展開し、地域の滞在時間の延長及び地域経済の活性化を図っていく。

委員

足助地区は豊田市の中でも受け継ぐべき歴史や自然があり、活性化に繋げていただきたい。

ここ数年でゲストハウスの新設もあるが、誘致する商業・サービス機能の補助に加えて、既存の機能がより良くなる支援はあるか。

足助支所

「足助の町並み活用計画」は、地域住民と共有する町の設計図として位置付けている。既存機能の維持や新規機能の誘致をとおして、移ろいゆく街の姿に合わせて都度設計図を見直す。お互い補完し合える関係でいられるよう、事業者や商工会等が加盟しているまちづくり推進協議会をはじめ、地域全体でエリア再生を図っていく。

委員

山側のエリアと町側のエリアとで、特徴があり、それぞれの文化形成がある中で、地域全体で計画を進めていただきたい。

委員

「足助の町並み活用計画」に、“現代版足助直し”と記載があるが、どのような意味が込められているか。

足助支所

“足助直し”は様々な地域から集められた塩の品質を整え、価値を高めて送り出す昔の塩の運び方を指す。足助地区の方からは歴史を感じるというご意見もあり、活用計画の表紙に掲載した。“足助直し”という言葉に加えて、足助の歴史も一緒に発信していく。

言葉もまちの姿も、時代とともに変化するため、設計図の改良については、地域全体で協議を進めていく。

委員

足助で生まれ育っている立場から、足助の現状について発言する。

足助は、1月を除いて年中催事等があり、多くの観光客で賑わっている。

一方で、宿泊施設の後継者不足により、ホテルや旅館が閉館するケースが増えており、足助を訪れても宿泊する場所が少ないという状況が生じている。地域で事業を継続している方は、催事等をとおして地域を盛り上げており、活力を感じている。

今後も、地域住民に加えて、有識者等の様々な意見を取り入れながら、より良い地域となることを期待する。

委員

豊田市のシェアハウスに移住し、そこで出会い結婚し、家を購入した知人がいる。足助地区もシェアハウスに力を入れるのはどうか。

商業・サービス機能を誘致する際、市としては奨励金や補助金を交付するだけになるか。

第3セクターとして、まちづくり推進協議会が出店やイベントの開催をする予定はあるか。

事務局

補助金や奨励金を交付することになる。まちづくり推進協議会によるイベン

ト開催等は特に予定はない。

委員

足助には、移住希望者が一定数いる一方、空き家が多く存在している。空き家の所有者と賃貸や売買の交渉が難航する中で、商工会等が空き家対策に取り組んでいる。

小学校における複式学級の導入による廃校の阻止や、老朽化した公共施設の解体・跡地活用の推進をすることで、移住者の受け入れや地域の賑わいに繋がると考える。

足助支所

足助は「暮らし」と「商売」が共存する地域であり、その持続を目指している。空き家バンクの活用を推進する一方で、市場に出ている空き家が少ないことは市も課題として認識している。

今後は、商工会やまちづくり推進協議会等と連携し、空き家を積極的に市場へ流通させることで、足助で暮らす人や商売をする人を増やし、「暮らし」と「商売」の両面から地域全体の活性化を図っていく。

(2) 豊田市商業活性化プラン 2025～2029 2025 年度実績報告
意見無し